

2. 観光渋滞対策の実施（平成29年度夏期）

(1) 時間限定クーポン付きリーフレット配布

GW期調査において明らかとなった状況を踏まえ、「現地状況を知らないと思われる県外・レンタカー利用者の多い時間帯において混雑が発生する」という課題に対して、平成29年8月10日～8月31日の期間で社会実験としてピーク時間帯における交通分散を目的とした時間限定クーポン付きのリーフレットを配布した。



図-5 時間限定クーポン付きリーフレット（H29年度夏期）

なお、リーフレットは、四万十川エリアの道の駅や高知空港・松山空港の観光案内所・レンタカー店等への配布を行った。

(2) 各種調査の実施

対策実施中に調査（以下、夏期調査）を実施し、GW期の調査結果と比較することで、効果検証を行った。実施した各種調査の結果を以下に示す。

表-1 平成29年度夏期調査の結果概要

調査名称	結果概要
①交通量調査	○交通量（機械観測で平成29年8月10日～17日実施）は、時間帯別断面交通量で200台時以下と少ない。 (GW期調査時の約75%程度の交通量) ○すれ違い困難区間の口屋内（図-1参照）では、11時台に交通量が多く、全交通に占める県外、レンタカー比率も高くなったが、口屋内～江川崎間のピーク時の所要時間は、上りで23分、下りで25分となり、GW期に比べて、所要時間のばらつきは少ない。
②アンケート調査	○リーフレットの認知度は、GW期の取り組みと比べ、83ポイント増加で若干向上。リーフレットの評価は、役に立つ（非常に役に立つ、まあまあ役に立つ）と回答した方は81%となった
③現地確認	○H29年の夏期も、GW期と同様に高知県で車両誘導対策を実施したが、特に目立った混雑は見られなかった。
④クーポン利用状況	○リーフレットに掲載した時間限定クーポンは、33件の利用があった。

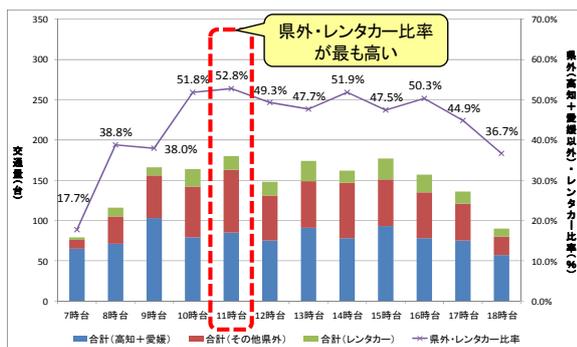


図-6 平成29年度夏期における交通量

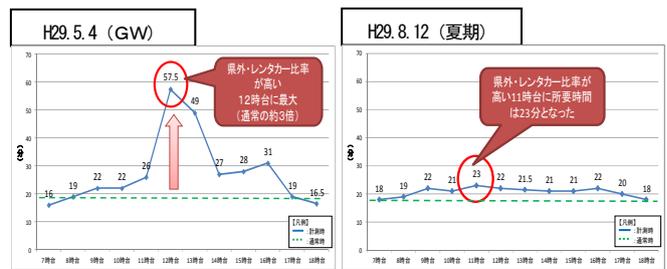


図-7 すれ違い困難区間の所要時間

（口屋内～西土佐方面：13.3km 通常時の所要時間：約19分）

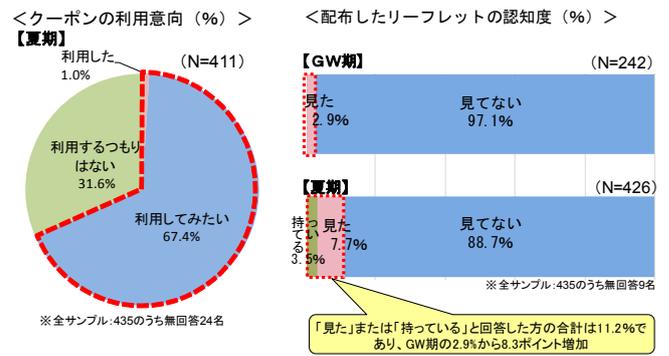


図-8 平成29年度夏期におけるアンケート調査結果

3. 平成29年夏期の取組を踏まえた課題・方針

平成29年度夏期の取り組みを通じて把握された課題と課題解決に向けた今後の方針を以下の通り整理した。

表-2 平成29年度夏期の取組課題と今後の方針

取組課題	今後の方針
交通量が多い状況での対策が必要	○交通が短期間に集中し、混雑が発生しているGW期において、交通分散（周遊促進・クーポン）の対策実施による効果検証が必要である。
リーフレットの認知度は低い	○配布範囲の拡大や混雑する時期以前から継続的に配布する等の取り組みが必要。 ○広報媒体をリーフレット以外のHP等に拡大。 ○周遊促進・クーポンの内容を充実させるだけでなく、地域を巻き込んだ取り組みへと拡大させる必要がある。
新たな集客への取り組み	○広域な周遊観光の実現、地域全体としての滞在時間を増やす取り組み等に対して地元の協力者から要望がある。 ○混雑緩和を目指すこととあわせ、四万十市街から西土佐・江川崎に足を運んで頂く観光振興策も同時に進める必要がある。
継続的な取り組み等	○観光シーズンの交通誘導員の配置は継続して実施する。（交通が集中する時間帯における流入抑制など運用改善も合わせて検討） ○注意喚起看板、路面表示（対向車接近表示装置設置箇所、待避所の明示化等）についても道路管理者である高知県との協議が必要である。

4. 観光渋滞対策の実施（平成30年GW期）

(1) 平成30年度GW期の取組内容

これまでのGWや夏期に実施した交通量調査により、県外・レンタカー利用者が多い時間帯では旅行速度が低下する傾向があることが分かった。

平成29年度夏期は交通量も200台/時以下となり混雑は発生しなかったが、平成30年度のGW期は、交通量が200台/時を超えることが十分に想定されることを踏まえ、取組内容を検討した。

1) リフレットによる周知広報（H29から継続）

リフレットによる周知広報は継続的な取組として実施し、H29年度夏期の掲載内容をもとに、四万十川周辺の周遊マップ、道の駅の時限クーポンを追加したバージョンを作成した。

また、配布範囲を拡大（旅館などの観光施設、高速のSA、コンビニ等）するとともに、混雑する時期以前（4月下旬頃）から配布を行った。

さらに、中村河川国道事務所のホームページにも掲載し、道の駅や観光協会等にバナーでのリンク掲載の協力もいただいた。



図-10 平成30年度GW期に作成したリフレット

2) リアルタイム交通量に基づく現地情報提供（新規）

GW期間中のピークと想定される期間に交通量調査を実施し、リアルタイム（10分毎）の交通量や今後の交通量の予測を、混雑区間外の観光施設（道の駅によって西土佐、物産館サンリバー四万十）に設置したモニターにて情報提供した。

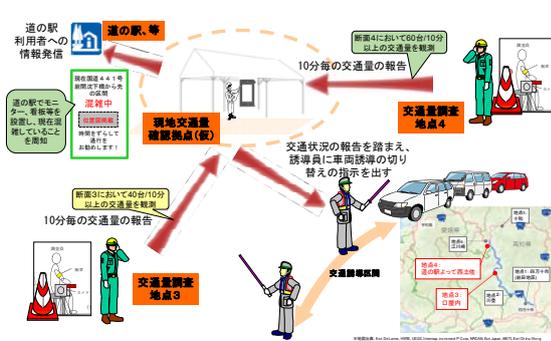


図-11 リアルタイム情報提供の実施イメージ

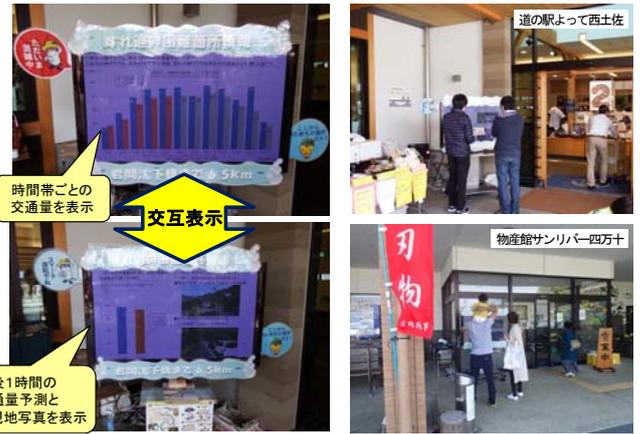


図-12 リアルタイム情報提供の実施状況

また、すれ違い困難区間手前に設置されている道路情報板に、すれ違い困難区間であること並びに、混雑時は片側交互通行を実施していることを道路管理者の高知県にて情報提供を実施した。



図-13 道路情報板による情報提供状況

3) 交通誘導（片側交互通行）の改善（新規）

道路管理者（高知県）と連携し、注意喚起看板設置や交通誘導員を手厚く配置し、すれ違い困難区間における交通集中による混雑が発生しないよう、交通量が多い時間帯にすれ違い困難区間での誘導等の取組を実施した。



図-14 平成30年度GW期の交通誘導配置計画

(2) 取組結果

平成30年度GW期における取組時にも、各種調査を実施した。

1) 交通量調査

平成30年度のGW期における交通量は昨年度と同程度となったが、交通誘導の改善など図ったことから、所要時間は大幅に増加はせずにスムーズな交通状況が確認された。

昼間時間帯で旅行時間が増加している要因は、交通量の増加に合わせ、県外・レンタカー比率が6割以上と増大する時間帯が連続したことが影響していると考えられ、地理・地形情報に不慣れた県外客の情報提供や現地での直接誘導が有効と考える。

ただし、15時台には下り方向で45分の所要時間を要しているが、これは、片側交互通行を行う区間を一時的に長くしたため、待ち時間が多く発生してしまったことに起因するものであったが、交通誘導開始地点の上下方向における滞留状況を確認し、下り方面の流入台数を増やすことで解消した。なお、この内容については今後の誘導方法改善に反映した。

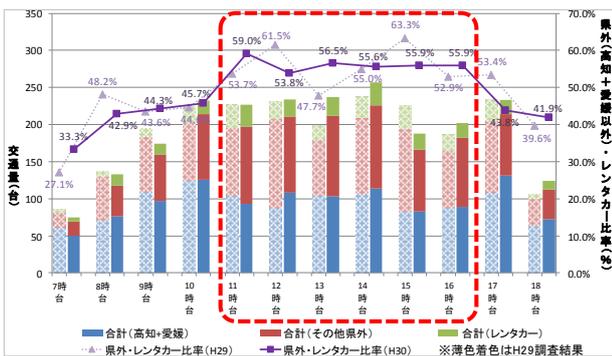


図-15 GW期における交通量 (H29とH30の比較)
(観測日：H29.5.4 (祝日) / H30.5.4 (祝日))

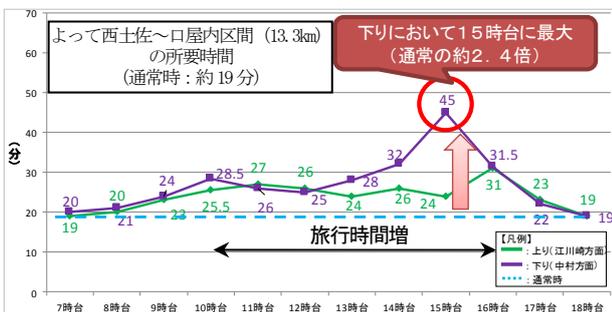


図-16 平成30年度GW期における所要時間 (H30.5.4)

2) アンケート調査結果

アンケート調査は3箇所 (道の駅よって西土佐、物産館サンリバー四万十、佐田沈下橋) にて実施し、734サンプルを取得した。

今回の取組において、広報媒体の認知度は1割程度 (図-17) と昨年度と同程度であったが、現地の片側交互通行の看板や道の駅等に設置したモニターに対する評価が高かった (図-18) ことから、観光期においては、現地におけるきめ細やかな情報提供は有効であるといえる。

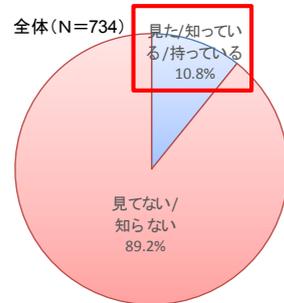


図-17 今回の各種情報提供の認知度 (リーフレット、ホームページ、モニター等)

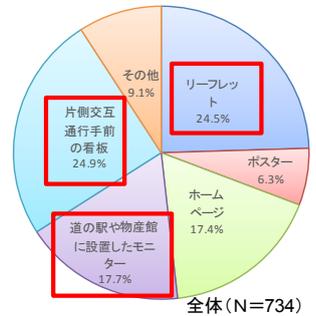


図-18 情報を入手しやすいと考える情報提供媒体 (各種媒体の提供内容を見ていただいた上での評価)



図-19 ドローン空撮によるすれ違い困難区間の記録状況 (H30.5.4 16時台における混雑時の状況)

5. 今後の取組 (案) について

これまでの結果を踏まえて、今後の取り組みとしては、道路管理者である高知県や地域で継続的に取り組めることが肝要であり、①改善した交通誘導方法の実践。②道路情報板を用いた情報提供や現地での注意喚起の実施。③交通分散や観光客の満足度が向上する様な魅力的なクーポン等の検討、実施が考えられる。

これらについては今後、高知県渋滞対策協議会において検討を進めていきたい。